

## 読書活動だより.71

編集・発行 静岡県読書推進運動協議会

静岡市駿河区谷田53-1  
静岡県立中央図書館内  
TEL 054-262-1246

## 本を伝える

静岡県読書推進運動協議会理事  
日本学校図書館学会静岡県支部副支部長  
静岡文化芸術大学・常葉大学非常勤講師  
林 容子

本にまつわる記憶は人の記憶につながっていきます。読書の授業で、学生に子どもの頃出会った絵本について話してもらると、ほとんどの学生は、本のことはもちろんですが、その本を読んでくれた人との思い出を語ります。自分に温かなまなざしが向けられ、心をこめて本を読んでもらうことは、子どもに大きな安心と喜びをもたらすうれしいひとときとなり、本とともに心に残っていくのでしょ。

私の思い出の本は、母の旧姓が記された『日本むかしばなし』（楠山正雄著・筑摩書房）です。昭和27年出版のこの本は、戦後間もなく教員になった母が教室で子どもたちに読み聞かせをし、家庭では私や弟に繰り返し読んでくれたものです。表紙を開くと「ねずみのよめいり」など、わくわくしながらお話を聞いた幼い日の思い出が、母の声がよみがえってきます。

子どもと本をつなぐ「人」の大切さについて、オリバー・プレスコットは「ひとりでの本を愛することを覚える子供などというのは、まずいない。誰かが、文字で書かれ

た言葉の素晴らしい世界へ、彼らを誘い込んでやらなくてはならない。誰かが、その世界へ行く道を教えてやらなくてはいけない」（『わが子に読み聞かせをする父親』より）と述べています。本の世界への案内人となる「誰かが子どものまわりにたくさんいればいるほど本の世界への道は広くなります。

この言葉のような、本へのいざないをする素敵な活動が、赤ちゃんに絵本を手渡す「ブックスタート」です。20年前に始まり、静岡県でも全市町で実施されています。幼いころから身近に本があり、本を通してまわりの人と心を触れ合わせることで豊かな本の世界を楽しむ子どもが育っていくことでしょう。

『本とともにだちプラン～静岡県子ども読書活動推進計画～』にも、「乳幼時期：本に出会い、本を知る」「就学期：本に親しみ、本を活かす」「成人期：本と生き、本を伝える」と生涯を通じて読書を楽しむ姿が示され、読書が習慣となるよう、様々な取り組みが行われています。次世代に「本を伝える」ために。

## 《内容紹介（もくじ）》

- ◎巻頭言…………… 1  
静岡県読書推進運動協議会理事 林 容子
- ◎図書館法施行70周年記念図書館関係者表彰者紹介………… 2
- ◎令和2年度 社会教育功労者表彰者紹介…………… 2
- ◎令和2年度 優良読書グループ紹介…………… 3
- ★(公社)読書推進運動協議会長表彰(全国表彰)  
いずみ読書会(富士市)

- ★静岡県読書推進運動協議会長表彰(県表彰)  
すまいるハート(静岡市)  
音読グループつくし(函南町)
- ◎静岡県読み聞かせネットワーク全体講演会報告… 4
- ◎静岡県読書推進運動協議会 推薦図書…………… 4

## 図書館法施行70周年記念図書館関係者表彰者紹介

文部科学省では、令和2年が図書館法施行70周年であることを記念し、地域における図書館活動を推進するため、多年にわたり図書館活動等の振興に功績のあった者等に対して、その功績をたたえ、文部科学大臣表彰を行っています。

### 勝山 高

(静岡県読み聞かせネットワーク会長)

地域の小中学校で学校図書ボランティアを設立され、代表として学校と連携して子どもの読書活動推進に努められました。その活動が評価され、平成12年に全国学校図書館協議会第2回学校読書推進大賞を受賞されました。この経験を講演会で図書館ボランティアや子ども読書アドバイザーに伝え、後進の育成にも尽力されています。平成20年度からは静岡県子ども読書アドバイザー企画認定委員会の委員に就任し、地域のボランティアと学校や図書館をつなげるコーディネーターの養成講座を開催し、相互の連携促進に貢献されています。

また、現在会長を務める静岡県読み聞かせネットワークでは、設立当時から役員として携わり、県内の読み聞かせグループや関係機関等と連携を図りながら、研修会や情報誌の発行を通して加盟職員の資質向上にも努められています。

#### 主な経歴

静岡県子ども読書推進ネットワーク構築中央推進会議委員  
静岡県読み聞かせネットワーク会長、役員  
静岡県読み聞かせボランティア等養成講座講師  
静岡県子ども読書活動支援連絡協議会委員  
静岡県子ども読書アドバイザー企画認定委員会  
静岡県読書活動推進会議 委員  
静岡県における子どもの読書活動推進検討委員会委員長  
静岡県読書推進運動協議会 理事



## 令和2年度 社会教育功労者表彰者紹介

文部科学省では、毎年地域における社会教育活動を推進するため、多年にわたり社会教育の振興に功労のあった者等に対して、その功績をたたえ、文部科学大臣表彰を行っています。今年度、静岡県読書推進運動協議会理事を務められた経験のある飯野紀代子氏が受賞されました。

### 飯野 紀代子

(元静岡県読み聞かせネットワーク会長)

静岡県母親クラブ連絡協議会の設立に御尽力され、全国母親クラブ連絡協議会の会長、理事も務められました。その経験を生かし、静岡県読み聞かせネットワークの立ち上げから携わり、役員として静岡県の読書推進に貢献され、読み聞かせを楽しみながら子どもたちの健やかな成長につながる活動をされています。平成24年3月から4年間は会長として県内の読み聞かせグループをまとめ、研修や講演会を県内各地で開催し、ボランティアの資質向上につなげられました。さらに、情報誌を通して読み聞かせネットワークの活動報告やおすすめ本の紹介を行うことで、多くの方へ本の読み聞かせの良さを伝えることに努められました。これまで地域を中心に積極的に活動されており、現在も様々な役職を務めながら、地域の小学校で放課後の子どもたちに対して児童健全育成を目的とした活動を続けられています。

#### 主な経歴

静岡県母親クラブ連絡協議会(現静岡県地域活動連絡協議会)設立・会長  
全国母親クラブ連絡協議会会長兼東海・近畿・北陸ブロック長  
全国母親クラブ連絡協議会(現全国地域活動連絡協議会)理事  
静岡県知事褒賞受賞  
静岡県読み聞かせネットワーク会長  
静岡県読書推進運動協議会理事  
静岡市立竜南小学校放課後子ども教室「たつっこ」実行委員長



## 令和2年度 優良読書グループ紹介

令和2年11月1日に静岡県読み聞かせネットワーク講演会にて、令和2年度の優良読書グループ表彰式を開催いたしました。

### (公社)読書推進運動協議会長表彰(全国表彰)

#### 【いずみ読書会(富士市)】

富士山の伏流水が百年の時を経て、湧き出る郷、富士市吉永地区に、いずみ湧き出る会、「いずみ読書会」として誕生しました。それは経済成長も華々しかった昭和46年5月の事でした。“心の成長も大切にしたい”という地域の人々の思いを受け、婦人会が大きな核となつての発足でした。風呂のまきを燃しながら、本のページを繰る時もありました。その様な親が本を読む姿は子どもへの無言のメッセージとなり、励みとなりました。家事、農業の傍ら時間をみつつけページを繰るような読書会でした。

選書においては講師の先生の勧めもあって歴史小説を読む楽しさを共有できました。秀吉と利休を掘り下げ、平清盛やその妻たちの人物像、時代背景を知る事により歴史小説の醍醐味にのめり込んだ時もありました。近代社会の急速な経済の発達の際側になにがあったのか、『下町ロケット』『永遠の0』など自分達も共に生きてきた近い過去の世界を巡り、その時自分は何をしていたのだろうかと思ふような読後感を持ちました。地元出身の作家として、井上靖・吉村昭等は時を変え複数の本を読破しました。伊豆の山々、土地柄が文脈から見え、『敦煌』『星と祭り』では井上靖の取材の緻密さを随所に感じました。女流文学も多く読み合いました。宮尾登美子の『天涯の花』は最近読み合った本で、徳島旅行を忘れられない夜にしてくれました。文中に出てくる花の名“キレンゲショウマ(黄蓮華升麻)”、そして剣山・かずら橋・小歩危が主人公と共に浮かび、旅の思い出が更に広がりました。読書会50年の歩みを考えた時、遅々としたもののように思えますが数々の感動を本からいただきました。

会員それぞれが歩んできた道も家族のあり方も違う中で同じ一冊の本を読んで「考え方」「思い」の違いがあり、それをいずみ読書会では、認めあい、学びあえたいと思います。読書の新たな発見ともなりました。こうした活動以外に、地元地域は「かぐや姫」伝説の発祥の地であるため、かぐや姫に手紙を差し上げる「手紙まつり」が開かれるのですが、そのお手伝いもさせていただき、地域の文化祭には、文学散歩の記録を展示して、地域の方にも親しんでもらっています。



### 静岡県読書推進運動協議会長表彰(県表彰)

#### 【すまいるハート(静岡市)】

絵本の読み聞かせや手遊びなどを通して絵本の楽しさを伝えること、親子等の豊かな関わり合いの一助となることを目的として平成17年10月に発足、年齢層豊かな8名が在籍しています。主な活動は静岡市立南部図書館「すまいるベビー」、図書館主催または地域活性化の各種イベント、静岡県立静岡聴覚特別支援学校でのおはなし会です。プログラムはメンバーの良さを活かし、絵本・手あそび・わらべ唄・ワークショップなど多岐に渡ります。また、静岡市立こども園の保育教諭や小学校の図書ボランティアを対象に、選本・手法・プログラム作成の講義や実演を行っています。今後もメンバー丸となって活動に努めてまいります。



#### 【音読グループつくし(函南町)】

函南町ボランティア連絡協議会に属し、声のボランティアとして活動している音読グループつくしは個人で朗読を学んで独自に活動していた者が、志を一つに集まり平成18年に設立されました。現在、会員18名で定例会にて話し合い、勉強・情報交換しています。またつくし所蔵の本・紙芝居等を「つくし文庫」として公開しております。

定期的に向う高齢の方や障害をもつ方の施設では、朗読や紙芝居・語りに加え歌や童歌・手遊び等と一緒に楽しんでいます。図書館や小中学校では読み聞かせ・お話し会にて子供達とも関わっています。心に響く名作、大切なものが込められた本、それを私達が媒介となり温かく伝えていきたいと思ひます。



## 静岡県読み聞かせネットワーク全体講演会報告

演 題：「絵本画家 赤羽末吉  
スーホの草原にかける虹」

講 師：赤羽茂乃氏

日 時：令和2年11月1日(日)13:30～15:30

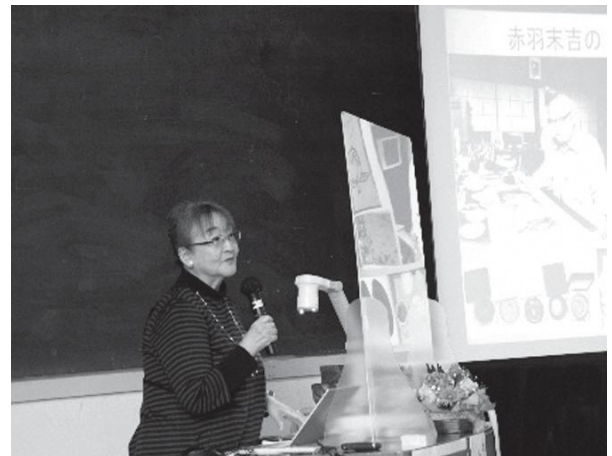
会 場：静岡県立中央図書館 会議室

参加数：50名

今年の全体講演会は、赤羽末吉研究者である赤羽茂乃氏をお迎えしました。茂乃氏は赤羽末吉氏のご子息に嫁ぎ、以後、赤羽末吉氏のご家族として、最も身近な読者として、共に過ごされてきました。

赤羽茂乃氏は、令和2年4月に赤羽末吉の自伝『絵本画家 赤羽末吉 スーホの草原にかける虹』を上梓され、また、本年は赤羽末吉生誕110年・没後30年という節目の年でもあり、当会の働きかけにより静岡市美術館では10月3日から「赤羽末吉展」も開催されました。

講演会では、ご著書を紐解きながら、『スーホの白い馬』を中心に、『かさじぞう』『ももたろう』な



ど、誰もが親しんでいる作品の製作過程や、それぞれの作品に託された思いなど、スライドを交えながらお身内ならではの話を話してくださいました。

赤羽末吉氏に対する真摯な姿勢、絶えず新しい技法にチャレンジしていく精神、そしてそこには子どもたち家族に対する深い愛情があることなど、単に、児童書の世界だけではなく、その作品の背景にある奥深さに大いに感銘を受けた一日でした。

今年度の講演会は、新型コロナウイルス感染症対策として参加者間の距離を確保するため、会場定員の半数に人数制限をして開催いたしました。

## 静岡県読書推進運動協議会推薦図書

### シニア世代へおすすめする本

『目指せ！全国制覇御城印ガイド  
お城版“御朱印”をもらおう！』  
萩原 さちこ／監修（徳間書店 2019.12）

『何度でも泣ける「沁みる夜汽車」の物語  
ありふれた鉄道で起きた  
ありえないかんだうの実話』  
NHK沁みる夜汽車制作チーム／著  
（ビジネス社 2020.1）

『うちの父が運転をやめません』  
垣谷 美雨／著（KADOKAWA 2020.2）

### 若い人へおすすめする本

『なぜ僕らは働くのか 君が幸せになるために  
考えてほしい大切なこと』  
池上 彰／監修（学研プラス 2020.3）

『ゴッホの手紙(新潮文庫)』  
小林 秀雄／著（新潮社 2020.9）

『コロナの時代の僕ら』  
パオロ・ジョルダーノ／著（早川書房 2020.4）

『「超」入門 空気の研究 日本人の思考と行動を  
支配する27の見えない圧力』  
鈴木 博毅／著（ダイヤモンド社 2018.12）